

かさじぞう

[ソロテーブルシアター]

人形

じいさま

ばあさま

六地藏 A (ノーマルサイズ曳き台に乗っている)

六地藏 B (小)

背景

囲炉裏(手前に傾け様子がみえるように)

障子(白/グレー)

戸口(内側/外側)

大きな俵(裏に<おわり>の文字)

小道具

笠 6個(一つはボロ)

背負子

蓑

おたから(俵、もち、酒、魚、正月飾り…)

1景 囲炉裏の前

<[中央に囲炉裏 奥に障子と壁がある]>

昔あるところに貧乏だが、仲良く暮らしているじいさまと ばあさまがあった…

ある年の大晦日のこと…じいさまはこういった…

「今日は大みそか…お正月くらいは、おいしい酒を呑んで、魚をおかずにして、雪のようなモチを食べよう…今日はおれ 笠を五つもこしらえた…[笠をさわって]これからこの笠を売ってごちそう買ってくるから、今年こそはいい年をとろうや」

「はいはい…それは楽しみですnee…それじゃあ火いたいてまっているから…」

「それじゃ…でかけるか…」

「雪が降りそうだから、あったかくしてくださいね[蓑を着せ、笠を背負わせる…]」



< 困炉裏・障子上手に下げる舞台中央にじいさまだけ残る >

2景 町



じいさまは山を一つ越えて、町へやってきた…町ではにぎやかな年越しの店がいっぱい並び、大勢の人たちが買い物をしていた…そこでじいさまもさっそく笠を売りにかかった…[じいさま下手から上手へ歩きながら…]

「笠やあ…笠 笠はいらんか…丈夫で長持ちする笠だよ…笠やあ…笠 笠はいらんか…丈夫で長持ちする笠だ…[中央でステイ]」

じいさまは上町から下町 下町から上町…何べんも歩いた…それでも笠はぜんぜん売れない…そしてそのまま夕方になり、そのうちに雪がモカモカ降ってきた… じいさまは 仕方なく笠を背負って戻っていった…[…と下手に向かい歩き始める]



3景 野原

< 下手に6体の地蔵が出る >

途中の広い野原に来たころにはとうとう吹雪になった…

野原には石の地蔵様たちが六人並んで立っているばかり…見れば吹雪にさらされて頭に雪をかぶっている

「あやあ…お地蔵さまが雪をかぶって寒そうだなあ…そうだこの笠をかぶっていただく…[以下、地蔵の後ろから頭の雪を払いながら背負子から笠を取ってかぶせていく…]一つ……二つ…

…三つ……四つ……五つ……[動きが止まり]これは困った…地蔵様は六人…笠は五つ…一つ足りない…そうだ…[自分のかぶっていた笠を脱いでかぶせて]ちょっと大きいかなあ…それにごいぶボロですが、これでかんべんしてくだされ…お地蔵さま…どうかお地蔵さまも良いお年を…さあ…うちへ帰ろう…[上手に入る 地蔵は下手に入る]」



4景 戸口の中

「[頭に雪を乗せたじいさま戸口から入ってきて]ばあさまあ…今帰った…」

「[ばあさま下手で迎えて] どうしたんですか…笠もかぶらないでまっ白になって」

「いやあ…すまないが、笠は一つも売れなかった…吹雪になった



帰り道にお地蔵さまたちが雪にうもれて寒そうだったので、笠を
ぜんぶ差し上げてきたところだ

…モチも魚も買えなかった…申し訳ない…」

「[雪を払い、蓑をとりながら]そうかそうか…それはいいことをし
なすった…なあに…笠を持って来たって年越しのたしにはならな
いもの…お地蔵さまにさしあげてよかったなあ…そんなら 今夜
はつけものでも食べて年をとりましょう…」

5景 囲炉裏



お正月は いいもんだ
油のような 酒飲んで
木ッ葉のような トつけて
雪のような ママ食うて
お正月は いいもんだ

二人はお正月の歌を歌いながら、つけものとおかゆで簡単な夕
ご飯を食べた

6景 寝部屋



<じいばあ上手に入り黒障子になる>
そしてその晩は早くに寝てしまった…

ところが正月の明け方に遠くから何かを引っ張るような掛け声
が聞こえてきた…

「[小さく]よーいさ よいさ よーいさなあ…」

「[少し大きく]よーいさ よいさ よーいさなあ…」



そこでじいさまとばあさまは目を覚ました…[障子の前に二人
が出てきて]

「[ばあさま]何の声でしょう？」

「[じいさま戸口の方をうかがって]あれはそりをひっぱるときの
掛け声のようだが…正月の朝早くにだれがそりをひっぱっている
のだろうか…」

「おかしいですねえ…」

「おかしいなあ」…[二人ステイ]

「掛け声はどんどん大きくなって…よーいさ よいさ よーいさな
あ…六大地蔵さ 笠とって かぶせてくれた じいうちあどこだ

ばあうちあどこだ よーいさ よいさ…じいうちあここだ」

ドシーン

「うわーっ[ふたりひっくり返る]」

—間—

「[じいさま立ちあがって]びっくりしたなあ」

「[ばあさまも立ちあがって]びっくりですねえ」

「なにか重いものが落ちたような音だなあ…外をみてみよう…」

「おじいさん…用心してください…」

7景 戸口の外



「[じいさま戸を開け、俵を見つけて]おおっ…家の前に大きな俵があるぞーっ」

「[ばあさまあとから出てきて]あらっ？」

「だれが運んできたんだらうか…」

するとまた遠くから声がした…

じいも ばあも げんきでなあー

じいも ばあも げんきでなあー

[奥に六地藏が小さく動いている]

「[二人それを見て]あれはお地藏さま…」



じいも ばあも げんきでなあー

[六地藏奥に消える]

それから二人が俵を開けてみると…中から

[鏡餅を出す]正月のもちやら…

[鮭と鯛を出す]魚やら…

[樽酒を出す]お酒やらが次々に出てきた…



「[二人、奥に向かって]お地藏さま一つ…ありがとうございます一つ[そのままステイ]」



そうして じいさまとばあさまはお地藏さまが運んでくれたごちそうで立派なお正月を迎えることができ、それから二人はず一つと仲良くくらししましたとさ…

お しま い

演出ノート

- ◇ 出演者が一人で語り、演じる台本です
- ◇ 台本中[ステイ]とあるのは人形がその場でストップモーションになることです…ステイすることで演者の手が自由になり、他の人形を動かしたり、場面転換が可能になります
- ◇ おじいさんが地藏に笠をかぶせていく場面が一つの見せ場になります…細かい演技はできませんからかぶせていく動作を一つつつメリハリをつけてください
- ◇ ドシーンの音で夫婦がひっくり返る場面は大きめに、そしてゆっくりと人形を倒し、一呼吸おいて起こしてみるといいでしょう…

参考資料

- ◇ かさじそう 瀬田貞二 再話 赤羽末吉 画
1966年 福音館書店
- ◇ かさじそう 西本鶏 文 福田庄助 絵
1995年ひかりのくに台
- ◇ かさじそう 大石真 文 村上勉 絵
1982年 チャイルド本社
- ◇ 笠地藏 (サラ文庫 まんが日本昔ばなし 45)
1976年 二見書房
…